

新車不足 遅れる納期

減産で人気車は半年待ちも

需要堅調、一部は中古に

半導体など部品不足による車大手の減産の影響で、新車の納期がさらに延びている。一部の車種で半年から1年かかる場合もあり、消費者にとって人気車種を中心に手に入りにくい状況が続いている。一方、販売店も店頭在庫が異例の水準まで低下しており、需要があるのに商機を逃している。買い手も売り手も前例のない新車不足に困惑している。

「そんなに待てない」。以来53年ぶりの低水準減産で、人気車種を中心に首都圏のスズキ販売店を訪れた60代の男性は肩を落とす。来年の車検切れを前に小型車「スイフトスポーツ」を購入しようとしたが、店員に「納車は半年後」と言われた。新車不足が深刻だ。9月の国内新車販売は31万8371台と1968年に伴う自動車大手の大幅落ちた。

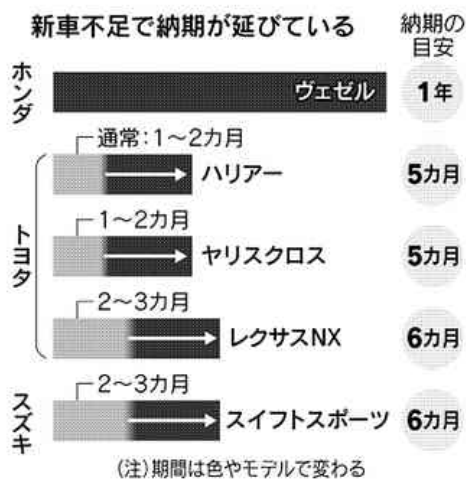
半導体などの供給制約に倍程度になった。多目的スポーツ車(SUV)「ハ

リヤー」では、10月初旬に4カ月以上だった納期が中旬に5カ月に伸びた。ホンダの新型SUV「ヴェゼル」は一部車種で1年以上かかる場合あり、一部グレードで受注を停止している。

「50年間でこんなに納期が遅れることは一度もなかった」(スズキの販売店オーナー)。別のメーカーの販売幹部は「人気車種だけでなく量販車まで手に入らない。30年間営業やってきたがこんな経験は初めて」と語る。

「50年間でこんなに納期が遅れることは一度もなかった」(スズキの販売店オーナー)。別のメーカーの販売幹部は「人気車種だけでなく量販車まで手に入らない。30年間営業やってきたがこんな経験は初めて」と語る。

「50年間でこんなに納期が遅れることは一度もなかった」(スズキの販売店オーナー)。別のメーカーの販売幹部は「人気車種だけでなく量販車まで手に入らない。30年間営業やってきたがこんな経験は初めて」と語る。



スズキの販売店では納期が延びるほど値引きする苦肉の策を打ち出す店舗も出てきた

新車不足にもかかわらず首都圏のスズキ販売店では納期が1カ月遅れるごとに5000〜1万円程度値引きを上積みしている。西日本のあるマツダ販売店は、新車が届く前に車検切れになりそうな顧客に車検費用をほぼ全額負担する取り組みを始めた。消費者にとって納期さえ我慢できればメリットは少なくない。一方、活況なのが中古車市場だ。業務用軽トラックなどでは納期を待たずに顧客が中古車に流れている。「軽トラックは商談の半分以上が中古車に移った」(首都圏のスズキ販売店)。中古車競売大手ユー・エス・エス(USS)によると、国内中古車の落札価格は9月に前年同月比で16%高い92万2000円。「過去10年で最高」(USS)自動車各社は11月から生産改善の見通しを示す。ただ納車まで生産から通常1〜2カ月程度かかる。ある販売幹部は「メーカーが12月から増産しても来年3月までに受注分を納車できるかわからない」と不安を隠さない。新車の需要と供給のミスマッチに販売店が悩む日々が続きそうだ。(白井咲貴、林咲希)